

概況

〔野菜〕

令和6年の取扱数量は、1,304,600 tで前年比4.0%減であった。取扱数量の多い品目（年間取扱数量50,000 t以上の品目）では、キャベツ、はくさい、たまねぎ、だいこん、にんじん、レタス、きゅうり、トマトが前年に比べ減少した。

平均価格は302円で、前年比11.4%高となった。

〔果実〕

令和6年の取扱数量は、343,753 tで前年比8.7%減であった。取扱数量の多い品目（年間取扱数量5,000 t以上の品目）では、とちあいか、シャインマスカットが前年に比べ増加し、普通みかん、すいか、ふじ、早生みかん、バナナ、極早生みかん、刀根、こだますいか、不知火、幸水、とちおとめ、豊水が前年に比べ減少した。

平均価格は587円で、前年比11.4%高となった。

（「野菜・果実順位別取扱高」参照）

月別市況

1月

〔野菜〕

気温は全国的に高く、特に北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。降水量は北日本日本海側でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美でかなり少なく、西日本太平洋側で少なかった。降雪量は北・東・西日本日本海側で大雪になったほか、下旬の西日本日本海側でかなり多かった。日照時間は、北・東・西日本日本海側で多く、沖縄・奄美でかなり多くなった。

取扱数量は107,259 tで前年比3.2%減。平均価格は250円で前年比3.8%安。

主な品目では、だいこんは千葉産及び神奈川産中心の入荷。千葉産及び神奈川産ともに生育は順調で

前進傾向だった。総入荷量は前年比7.0%減。平均価格は高めに推移した前年より23円安い76円。にんじんは千葉産中心の入荷。天候に恵まれ育成は順調だった。総入荷量は前年比9.3%減。平均価格は前年より3円高い118円。キャベツは愛知産を中心に千葉産の入荷。愛知産は天候に恵まれて育成は順調で、結球、肥大も順調で良好。千葉産も天候に恵まれて前進傾向となった。総入荷量は前年比1.3%増。平均価格は高めに推移した前年より22円安い76円。レタスは静岡産を中心に香川産及び長崎産の入荷。静岡産は気温の上昇により生育は前進傾向となった。香川産は12月からの天候に恵まれ生育は順調。長崎産は干ばつ傾向で生育の遅れが見られたが、小玉傾向ながら生育は回復した。総入荷量は前年比5.5%減。平均価格は前年より26円安い216円。はくさいは茨城産中心の入荷。作付面積は前年並み。11月の高温により生育はやや前進傾向となった。総入荷量は前年比7.1%減。平均価格は前年より3円高い56円。ほうれんそうは茨城産及び群馬産を中心に関東産の入荷。気温が高い影響を受け生育は順調で前進傾向となった。総入荷量は前年並みの0.8%増。平均価格は前年より102円安い465円。ばれいしょ類は北海道産を中心に長崎産及び鹿児島産の入荷。北海道産は貯蔵品からの出荷。長崎産の生育はおおむね順調。鹿児島産は高温、干ばつの影響があったものの、その後の天候に恵まれ回復傾向となった。総入荷量は前年比2.6%増。平均価格は前年より2円安い132円。

〔果実〕

みかん類、かんきつ類、りんご類、いちご類中心の入荷で、取扱数量は29,136 t、前年比10.5%減。平均価格は536円で前年比0.2%高。

主な品目では、みかん類は主な入荷が愛媛産から静岡産へとシフトし、平年よりも小玉傾向だった前年比で総入荷量は2.9%増。平均価格は前年比15円高。かんきつ類は愛媛産を中心にいよかん、ポンカ

ン等が入荷しており、高温、干ばつの影響等で小玉傾向もあり総入荷量は前年比1.7%減。平均価格は前年比20円高。りんご類は青森産ふじの貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は昨年夏から秋にかけての高温障害による品質低下等の影響を受けて不作となったことから、貯蔵量が少なく前年比23.2%減。平均価格は前年比121円高。いちご類は栃木産、茨城産を中心に入荷し、総入荷量は前年比5.8%減。平均価格は前年比5円高。

2月

[野菜]

気温は東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高かった。北日本で高かった。降水量は西日本日本海側・太平洋側でかなり多かった。東日本太平洋側で多かった。北日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。降雪量は東日本太平洋側で多かった。北・東・西日本日本海側、西日本太平洋側でかなり少なかった。日照時間は北日本、沖縄・奄美で多かった。東日本太平洋側、西日本でかなり少なかった。

取扱数量は107,559 t で前年比3.2%増。平均価格は前年と同じ。

主な品目では、だいこんは神奈川県及び千葉県中心の入荷。神奈川県は天候に恵まれ、やや前進傾向であったが干ばつ傾向となったため、平年並みとなった。千葉県は天候に恵まれ前進傾向。総入荷量は前年比2.5%減。平均価格は前年より10円安い91円。にんじんは千葉県中心の入荷。気温が高い影響を受け生育は順調で前進傾向。総入荷量は前年比7.6%減。平均価格は前年より10円高い136円。レタスは静岡県を中心に茨城産及び香川産の入荷。静岡県は気温が高く適度な降雨もあり前進傾向。茨城産及び香川産も天候に恵まれ生育は順調だった。総入荷量は前年比13.6%増。平均価格は高めに推移した前年より54円安い176円。はくさいは茨城産中心の入荷。育成期に天候に恵まれ前進傾向となったが、秋冬作

の切り上りが早まった。総入荷量は前年比4.7%減。平均価格は前年より4円高い67円。ほうれんそうは茨城産及び群馬産中心の入荷。茨城産は気温が高く前進傾向。群馬産は露地物が前進傾向で切り上りが早まった。総入荷量は前年比11.5%増。平均価格は高めに推移した前年より75円安い427円。きゅうりは宮崎産を中心に群馬産及び千葉産の入荷。宮崎産はおおむね生育順調だが、一部に病虫害が発生した。群馬産も生育は順調で前進傾向だが、やや草勢が弱い。千葉産も天候に恵まれ生育は順調も一部で病害が散見された。総入荷量は前年比1.2%減。平均価格は前年より48円高い497円。ばれいしょ類は北海道産を中心に鹿児島産の入荷。北海道産の収穫は終了し貯蔵品からの出荷。発芽が懸念され選果効率が低下し、残量はやや多い。鹿児島産は高温、干ばつにより生育不良が見られたが、その後は天候に恵まれ回復した。総入荷量は前年比8.7%増。平均価格は前年より14円安い138円。たまねぎは北海道産を中心に静岡県産の入荷。北海道産の収穫は終了した。夏場の高温、干ばつの影響により作柄不良で小玉傾向となった。静岡県産は天候に恵まれ生育は順調。総入荷量は前年比6.8%減。平均価格は高めに推移した前年より49円高い186円。

[果実]

かんきつ類・みかん類・りんご類・いちご類中心の入荷で取扱数量は29,730 t、前年比2.7%減。平均価格は606円で前年比12.0%高。

主な品目では、かんきつ類は愛媛産を中心に不知火、ポンカン、いよかん等が入荷し、総入荷量は小玉傾向もあり前年比3.5%減。平均価格は前年比23円高。みかん類は前月に引き続き静岡県中心の入荷となり、静岡県産は前年比で減少したものの、九州産等が増加したため総入荷量は前年比11.4%増。平均価格は前年比14円高。りんご類は引き続き貯蔵品の青森産ふじ中心の入荷で総入荷量は前年比20.2%減。平均価格は前年比121円高。いちご類は栃木産を中

心に各地から2番果が入荷し、寒波等の影響で入荷の少なかった前年比で総入荷量は6.7%増、平均価格は前年比44円高。

3月

[野菜]

気温は北・西日本で高かった。降水量は東・西日本日本海側、東・西日本太平洋側でかなり多かった。降雪量は東日本太平洋側で多く、西日本太平洋側で少なかった。日照時間は北日本日本海側と北日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。東日本日本海側で少なかった。

取扱数量は104,779 tで前年比5.9%減。平均価格は306円で前年比15.0%高。

主な品目では、だいこんは千葉産及び神奈川産中心の入荷。千葉産は天候に恵まれ生育は順調で前進傾向となった。神奈川産は降水量が少なく干ばつ傾向となったため平年並みとなり、早めの切り上りとなった。総入荷量は前年比8.9%減。平均価格は前年より15円高い105円。にんじんは徳島産を中心に千葉産の入荷。徳島産は天候に恵まれ生育は順調で肥大は良好。千葉産は暖冬の影響で前進傾向となり終盤で切り上りが早い。総入荷量は前年比8.2%減。平均価格は平年並みとなった前年より45円高い201円。キャベツは愛知産を中心に神奈川産及び千葉産の入荷。愛知産は高めの気温により生育は前進傾向。神奈川産は干ばつによる生育遅れから回復。千葉産も天候に恵まれ前進傾向。総入荷量は前年比12.5%減。平均価格は平年並みとなった前年より27円高い112円。レタスは茨城産を中心に静岡産の入荷。茨城産は温暖な気候に恵まれ生育は前進傾向。静岡産は1月上旬以降の気温高により生育は前進傾向となり下旬に向け漸減した。総入荷量は前年比15.3%減。平均価格は高めに推移した前年を上回り42円高い221円。はくさいは茨城産中心の入荷。暖冬で生

育が大幅に前進したことから秋冬の切り上りが早く、継投ができず入荷が減少した。総入荷量は前年比3.1%減。平均価格は前年より54円高い141円。ほうれんそうは茨城産及び群馬産を中心に関東産の入荷。茨城産の作付面積は前年をやや上回り、暖冬により生育は順調で前進傾向。群馬産は平坦地では前進傾向で切り上りが早く、高冷地では一部低温障害が見られた。総入荷量は前年を大幅に下回り17.5%減。平均価格は前年より124円高い542円。ばれいしょ類は北海道産及び鹿児島産を中心に入荷。北海道産は収穫が終了し貯蔵品からの出荷。発芽が懸念され選果効率が低下。鹿児島産は暖冬により生育が前進傾向となった。総入荷量は前年比14.5%増。平均価格は前年より4円高い152円。

[果実]

かんきつ類・りんご類・いちご類中心の入荷で、取扱数量は24,870 t、前年比10.5%減。平均価格は648円で前年比12.1%高。

主な品目では、かんきつ類は愛媛産、熊本産、和歌山産を中心に不知火や清見・あまなつかん等が入荷し、総入荷量は小玉傾向もあり前年比1.6%減。平均価格は前年比13円高。りんご類は前月同様青森産ふじの貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は前年比24.0%減。平均価格は前年比152円高。いちご類は栃木産、福岡産を中心に入荷し、当月の気温低下に伴う生育遅延等の影響により総入荷量は前年比14.4%減。平均価格は前年比168円高。

4月

[野菜]

気温は全国的にかなり高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側と西日本日本海側で多かった。北日本日本海側では少なかった。日照時間は北日本日本海側ではかなり多く、北日本

太平洋側、東日本日本海側が多かった。西日本ではかなり少なく、東日本太平洋側で少なかった。

取扱数量は110,253 t で前年比0.4%減。平均価格は321円で前年比16.7%高。

主な品目では、だいこんは千葉産中心の入荷。3月の低温と日照不足の影響で生育が遅延し、入荷量が減少し価格は高値で推移した。総入荷量は前年比5.1%減。平均価格は前年より34円高い133円。にんじんは徳島産中心の入荷。降雨による播種遅れと低温の影響により生育が遅れ、入荷が減少した。総入荷量は前年比7.2%減。平均価格は前年より大幅に上昇し100円高い273円。キャベツは神奈川産を中心に愛知産及び千葉産の入荷。神奈川産は3月の低温で生育が遅延傾向。愛知産は生育が前進したことにより切り上りに向け減少。総入荷量は前年比7.5%減。平均価格は高めに推移した前年より41円高い147円。レタスは茨城産中心の入荷。温暖な気候で生育は前進傾向。総入荷量は前年比1.5%減。平均価格は前年より58円高い220円。きゅうりは群馬産及び埼玉産を中心に宮崎産の入荷。群馬産の生育は順調だが一部で病害が散見された。埼玉産は月の降雨等により遅延が見られるがおおむね順調。宮崎産も生育はおおむね順調。総入荷量は前年比3.9%減。平均価格は前年より72円高い384円。トマトは熊本産及び栃木産を中心に愛知産の入荷。熊本産はおおむね生育順調も3月下旬からの降雨等の天候の影響を受け一部に病害が見られた。栃木産の生育はおおむね順調であったが、3月上旬の降雪等により病害の発生が見られた。愛知産の生育はおおむね順調。総入荷量は前年比3.8%増。平均価格は前年より25円高い433円。ばれいしょ類は鹿児島産を中心に北海道産の入荷。鹿児島産の生育は順調で大玉傾向。北海道産は貯蔵品からの出荷。総入荷量は前年比11.8%増。平均価格は前年より25円安い179円。たまねぎは北海道産を中心に佐賀産の入荷。北海道産は貯蔵品からの出荷。夏場の高温により作柄が悪く小玉傾向。佐賀産は天候に恵まれ肥大良好。

総入荷量は前年比14.3%減。平均価格は前年より32円高い142円。

[果実]

かんきつ類・いちご類・りんご類・すいか類中心の入荷で、取扱数量は21,752 t で前年比6.6%減。平均価格は628円で前年比17.8%高。

主な品目では、かんきつ類は、生育が前進していた露地物は切り上りが早くなり貯蔵品へと切り替わる。河内晩柑やあまなつかんが入荷増となった一方で、不知火や清見が入荷減となった結果、総入荷量は前年比1.1%減。平均価格は前年比13円高。いちご類は栃木産を中心に、気温上昇とともに入荷量も増え、総入荷量は前年比12.6%増。引き合いが強く、平均価格は前年比66円高。りんご類は青森産貯蔵品を中心に入荷し、総入荷量は前年比26.1%減。品薄となり平均価格は前年比145円高。すいか類は熊本産を中心に入荷し、総入荷量は前年比3.0%減。平均価格は前年比29円高。

5月

[野菜]

気温は北・東日本、沖縄・奄美で高かった。降水量は東・西日本太平洋側でかなり多く、北・東日本日本海側、沖縄・奄美が多かった。日照時間は北日本太平洋側、西日本日本海側では多かった。

取扱数量は111,515 t で前年比10.1%減。平均価格は312円で前年比20.5%高。

主な品目では、だいこんは千葉産中心の入荷。日照不足と低温により育成が遅れた。中旬以降は天候の回復により育成は平年並みとなった。入荷量は前年平年ともに下回り、価格は高騰した。総入荷量は前年比11.5%減。平均価格は前年より47円高い138円。にんじんは徳島産を中心に千葉産の入荷。徳島産は天候の不順により不安定な入荷となり、中旬以

降は終盤となり減少した。千葉産も低温と降雨等により育成に遅延が見られたが、気温上昇で回復傾向にあり生育はおおむね順調。総入荷量は前年比13.6%減。平均価格は前年より57円高い219円。キャベツは千葉産を中心に愛知産及び神奈川産の入荷。千葉産は天候に恵まれ生育は前進傾向となった。愛知産は気温の上昇で前進し切り上りに向け漸減した。神奈川産は気温上昇に伴いかなり前進傾向で下旬に向けて漸減した。総入荷量は前年比13.9%減。平均価格は前年より86円高い170円。レタスは群馬産を中心に長野産及び茨城産の入荷。群馬産は降霜や低温の影響で育成にばらつきが見られた。長野産は降雨、降雪の影響により定植の遅れで生育に遅れがあったが4月の気温上昇に伴い回復傾向。茨城産は下旬に向けほぼ切り上がった。総入荷量は前年比2.0%増。平均価格は前年より19円高い142円。きゅうりは埼玉産及び群馬産を中心に宮崎産の入荷。埼玉産は3月以降の低温により生育が停滞し後倒し傾向もおおむね順調となった。群馬産の生育はおおむね順調であるが、天候の影響を受けて出荷量にばらつきがあった。入荷量は全体的に減少傾向。総入荷量は前年比7.6%減。平均価格は前年より70円高い307円。なすは高知産を中心に群馬産の入荷。高知産の生育はおおむね順調も一部に病害が散見された。群馬産の育成もおおむね順調。総入荷量は前年比7.9%減。平均価格は前年より55円高い432円。トマトは熊本産及び栃木産を中心に愛知産の入荷。熊本産は4月の天候不順の影響で病虫害が散見された。栃木産及び愛知産の生育はおおむね順調。総入荷量は前年比13.1%減。平均価格は前年より60円高い388円。ばれいしょ類は長崎産を中心に鹿児島産の入荷。長崎産は降雨の影響により病害が散見された。鹿児島産の生育は順調だったが、降雨の影響により下旬に切り上がった。総入荷量は前年比25.4%減。平均価格は前年より78円高い236円。たまねぎは佐賀産を中心に北海道産及び兵庫産の入荷。佐賀産の生育は順調で肥大も良好であった。北海道産は

貯蔵品からの出荷で夏場の高温、干ばつの影響で柄不良で小玉傾向。兵庫産も気温があまり高くないことから小玉傾向。総入荷量は前年比15.2%減。平均価格は前年より23円高い123円。

[果実]

すいか類・かんきつ類・りんご類・いちご類・メロン類中心の入荷で、取扱数量は20,251 t、前年比11.7%減。平均価格は594円で前年比11.7%高。

主な品目では、すいか類は大玉が熊本産を中心に入荷し、天候不良の影響による定植遅延や着果不良等が生じたため前年比20.6%減、こだまは茨城産を中心に入荷し、3月の交配時期の天候不良の影響を受け前年比15.1%減。総入荷量は春先の天候不良等により前年比19.5%減。一方で、当月の気温の上昇とともに引き合いは強くなり、平均価格は前年比73円高。かんきつ類は愛媛産、熊本産を中心にあまなつかん等が入荷し、切り上がり早く入荷の少なかった前年比で総入荷量は17.9%増。平均価格は前年比1円高。りんご類は青森産貯蔵品を中心に、総入荷量は前年比20.8%減。平均価格は前年比86円高。メロン類は茨城産、熊本産を中心に入荷し、小玉傾向に加えて、燃油費高騰の影響を受けて厳寒期の作付けを減らした産地もあり、総入荷量は前年比24.7%減。平均価格は前年比102円高。

6月

[野菜]

気温は北・東日本でかなり高く、西日本、沖縄・奄美で高かった。降水量は東日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。北日本太平洋側でかなり少なかった。日照時間は北・東日本太平洋側、東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側では多かった。

取扱数量は107,348 tで前年比7.4%減。平均価格は282円で前年比6.0%高。

主な品目では、だいこんは青森産を中心に千葉産及び北海道産の入荷。青森産の生育はおおむね順調。千葉産は4月以降の多雨の影響により遅れが見られたが順調に回復。北海道産の生育は順調であった。総入荷量は前年比4.9%減。平均価格は前年並み。にんじんは千葉産中心の入荷。2月から3月の低温と曇雨天の影響により生育が遅延したが、その後の気温の上昇により回復した。総入荷量は前年比16.2%減。平均価格は前年より86円高い226円。キャベツは千葉産を中心に茨城産及び群馬産の入荷。千葉産は4月以降の多雨の影響により生育の遅延が見られたが、その後は天候に恵まれ生育は前進した。茨城産の生育は順調に推移し前進傾向となった。群馬産の生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比1.2%増。平均価格は前年より11円安い84円。レタスは長野産を中心に群馬産の入荷。長野産は3月の天候の影響で生育が遅れていたが、4月以降の気温の上昇と適度な降雨で生育は回復した。群馬産も天候に恵まれ生育は順調であった。総入荷量は前年を下回り前年比7.7%減。平均価格は前年より11円安い100円。きゅうりは群馬産及び埼玉産を中心に福島産の入荷。群馬産は曇天により生育不良であったが、その後の天候の回復によりおおむね順調であったが収穫量が少なく終盤となった。埼玉産は好天に恵まれ生育は順調。福島産は低温による生育の遅延が見られたが、おおむね順調。総入荷量は前年比3.1%減。平均価格は安値で推移した一昨年並みで、前年より60円安い226円。トマトは栃木産及び熊本産を中心に愛知産の入荷。栃木産はやや黄変が見られるものの順調。熊本産は4月以降の天候不良の影響を受け一部に病害が散見されたがおおむね順調。愛知産の生育はおおむね順調。総入荷量は前年比4.6%減。平均価格は前年より41円高い335円。ばれいしょ類は長崎産を中心に静岡産の入荷。長崎産は天候不良の影響で歩留まりの低下が見られた。静岡産は3月の凍霜害の影響で生育が遅れた。総入荷量は前年を大幅に下回り前年比24.7%減。平均価

格は大幅に上がり、前年より159円高い312円。たまねぎは兵庫産及び佐賀産中心に入荷。兵庫産は育成期の天候不良の影響を受け病害が散見された。佐賀産は天候不順の影響により作柄はやや不良で一部に病害が散見された。総入荷量は大幅に減少し前年比22.2%減。平均価格は前年より66円高い162円。

[果実]

すいか類・メロン類・りんご類・もも類中心の入荷で、取扱数量は22,606 t、前年比10.5%減。平均価格は555円で前年比1.6%高。

主な品目では、すいか類は主な入荷が熊本産から千葉産へと移行し、総入荷量は前年比1.4%増。平均価格は前年比17円高。メロン類は茨城産を中心に貴味、アンデス、クインシー等が入荷し、前月から引き続き小玉傾向からは徐々に回復に向かうものの、総入荷量は前年比9.8%減。平均価格は前年比32円高。もも類は山梨産を中心に入荷し、干ばつの影響により小玉傾向となり、総入荷量は前年比12.4%減。平均価格は前年比70円安。

7月

[野菜]

気温は全国的にかなり高く、1898年以降で7月として最も高かった。降水量は北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。東日本太平洋側で少なかった。日照時間は沖縄・奄美でかなり多く、北・東・西日本太平洋側で多かった。

取扱数量は105,847 tで前年比4.3%減。平均価格は285円で前年比5.2%高。

主な品目では、だいこんは北海道産及び青森産中心の入荷。北海道産は高温のため生育は前進傾向。青森産は一部に生理障害が散見されたがおおむね順調。総入荷量は3.5%減。平均価格は前年より3円安い89円。にんじんは青森産を中心に北海道産の入

荷。青森産は天候に恵まれ、目立った病虫害も見られず、生育は順調。北海道産は天候に恵まれ生育は順調。総入荷量は前年比1.4%減。平均価格は前年より35円高い181円。キャベツは群馬産中心の入荷。5月の天候不良により生育が停滞したが、適度な降雨と気温の上昇により回復し生育は順調となった。総入荷量は前年比2.3%増。平均価格は前年より20円安い77円。レタスは長野産を中心に群馬産の入荷。長野産は6月以降の天候に恵まれ生育は順調であった。総入荷量は前年比3.5%減。平均価格は前年より14円高い114円。きゅうりは福島産を中心に岩手産の入荷。福島産の生育は順調であったが病虫害の影響により収量が減少した。岩手産は一部で病虫害が散見されたが、生育はおおむね順調。総入荷量は前年比10.6%減。平均価格は前年より83円高い380円。トマトは北海道産を中心に岩手産及び青森産の入荷。北海道産の生育はおおむね順調。岩手産は病虫害が散見されたがおおむね順調。青森産も生育はおおむね順調であったが一部産地で病害が見られた。総入荷量は前年比2.9%減。平均価格は前年より12円安い362円。ばれいしょ類は茨城産を中心に北海道産及び千葉産の入荷。茨城産の生育は順調。北海道産は天候に恵まれ生育は前進傾向となった。総入荷量は前年比9.4%減。平均価格は前年より78円高い253円。

[果実]

すいか類・もも類・メロン類・りんご類・なし類中心の入荷で、取扱数量は31,105 t、前年比3.0%減。平均価格は567円で前年比3.8%高。

主な品目では、すいか類は山形産、新潟産、千葉産を中心に順調に入荷し、総入荷量は前年比7.1%増。平均価格は前年比4円安。もも類は山梨産、福島産を中心にあかつきや白鳳が入荷し、総入荷量は前年比3.8%増。平均価格は前年比84円高。メロン類は千葉産の貴味、山形産アンデス、静岡産アールスを中心に入荷し、総入荷量は前年比5.9%増。平

均価格は前年比16円安。なし類は前年に生育が前進傾向で入荷が多かった茨城産、千葉産については当年の数量が大幅に減少したため、佐賀産や福岡産が入荷の中心となった。総入荷量は前年比62.2%大幅減。平均価格は前年比161円高。

8月

[野菜]

気温は全国的にかなり高かった。降水量は東日本太平洋側でかなり多かった。北・西日本太平洋側で多かった。東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。日照時間は西日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多かった。北日本日本海側と北日本太平洋側で少なかった。

取扱数量は111,428 tで前年比0.4%増。平均価格は310円で前年比14.0%高。

主な品目では、だいこんは北海道産を中心に青森産の入荷。北海道産は高温により生育は前進傾向になった。青森産も天候に恵まれ育成は前進傾向となったが、高温と降雨により病虫害が散見された。総入荷量は前年比0.3%増。平均価格は前年より15円高い124円。にんじんは北海道産中心の入荷。高温の影響により生育は順調で前進傾向となった。総入荷量は前年比25.2%増。平均価格は前年より34円安い119円。キャベツは群馬産中心の入荷。生育は順調であったが、7月の高温、干ばつの影響を受け、病害が散見された。総入荷量は前年比0.4%減。平均価格は前年より16円高い94円。レタスは長野産中心の入荷。天候に恵まれ生育はおおむね順調であったが、一部で干ばつによる肥大不足が見られた。総入荷量は前年比5.3%増。平均価格は前年より24円高い138円。きゅうりは福島産を中心に岩手産など東北産の入荷。福島産は定植時の低温や7月の高温、曇天により影響を受けたが生育はおおむね順調。岩手産は一部の病害が散見されたが生育はおおむね順調。総入荷量は前年比6.1%減。平均価格は前年よ

り84円高い401円。トマトは北海道産を中心に福島産及び青森産の入荷。北海道産はおおむね順調であった。福島産は一部で病虫害が散見された。青森産は高温による落花や病虫害が散見された。総入荷量は前年比11.3%減。平均価格は前年より75円高い422円。ばれいしょ類は北海道産中心の入荷。干ばつの影響による小玉傾向となるが、温暖な気候と適度の降雨に恵まれ生育は順調であった。総入荷量は平年よりも少なかった前年の6.0%減。平均価格は前年より87円高い240円。たまねぎは北海道産を中心に兵庫産の入荷。北海道産は天候に恵まれ生育は順調で前進傾向。兵庫産の生育は順調で、収穫及び貯蔵は完了している。総入荷量は前年比7.3%増。平均価格は31円高い142円。

[果実]

なし類・すいか類・もも類・ぶどう類中心の入荷で、取扱数量は30,981 t、前年比1.2%増。平均価格は641円で前年比11.9%高。

主な品目では、日本なし類は栃木産、茨城産、千葉産幸水を中心に入荷し、総入荷量は前年比2.7%減。平均価格は前年比79円高。すいか類は山形産を中心に長野産、秋田産が入荷し、総入荷量は前年比0.1%増。平均価格は猛暑日が続いたことで引き合いが強く、前年比33円高。もも類は福島産、山形産を中心に川中島白桃、あかつき等が入荷し、作柄良好で入荷も前進気味であり、総入荷量は前年比22.9%増。平均価格は前年と同額。ぶどう類は山梨産シャインマスカットや巨峰、山形産デラウエア等が入荷した。シャインマスカットは作付面積とともに入荷量も増加したが、巨峰やピオーネの黒系ぶどうは作付面積とともに入荷量が減少し、デラウエアは天候要因による玉割れ等が生じたため、総入荷量は前年比4.1%減。平均価格は前年比223円高。

9月

[野菜]

気温は全国的にかなり高かった。降水量は東日本日本海側で多かった。北日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側、東日本太平洋側で少なかった。日照時間は北・西日本日本海側、西日本太平洋側でかなり多く、北・東日本太平洋側、東日本日本海側で多かった。沖縄・奄美で少なかった。

取扱数量は106,401 tで前年比3.9%減。平均価格は323円で前年比4.5%高。

主な品目では、だいこんは北海道産を中心に青森産の入荷。北海道産は播種時期の干ばつや天候不順の影響に加え、高温の影響により育成の遅れが見られ、一部に病害も見られたが9月に入り落ち着いている。青森産は天候に恵まれ生育は前進傾向となった。総入荷量は前年比0.7%減。平均価格は前年より6円安い146円。にんじんは北海道産中心の入荷。6月からの気温高により生育は良好であった。総入荷量は前年比17.7%増。平均価格は前年より85円安い141円。キャベツは群馬産中心の入荷。一部に病害が見られたが、生育はおおむね順調であった。総入荷量は前年比1.9%減。平均価格は前年より6円高い96円。レタスは長野産中心の入荷。8月以降の高温と降雨により病害が見られた。総入荷量は前年比6.5%減。平均価格は前年より55円高い219円。はくさいは長野産中心の入荷。8月以降の高温と降雨により病害が発生し、品質低下が見られた。総入荷量は前年比17.5%減。平均価格は前年より20円高い112円。きゅうりは福島産を中心に群馬産の入荷。福島産は高温の影響により生育の不良が見られ、病虫害も散見された。群馬産は生育順調も高温による果形の乱れがあった。総入荷量は前年比13.0%減。平均価格は前年より96円高い443円。トマトは北海道産、福島産及び千葉産の入荷。北海道産は高温の影響があったものの生育はおおむね順調であった。福島産及び千葉産は高温の影響により病虫害が散見された。総入荷量は前年比8.4%減。平均価格は前

年より29円高い638円。たまねぎは北海道産中心の入荷。高温の影響により生育は順調で前進傾向となり、大玉で品質も良好であった。総入荷量は前年比1.2%減。平均価格は前年より12円高い117円。

[果実]

なし類・ぶどう類・りんご類・かき類・みかん類中心の入荷で、取扱数量は27,323 t。前年比8.8%減。平均価格は639円で前年比9.4%高。

主な品目では、日本なし類は栃木産を中心に福島産、千葉産、茨城産が入荷した。豊水、あきづきを中心に入荷し、干ばつによる小玉傾向もあり、総入荷量は前年比3.1%減。平均価格は前年比25円高。ぶどう類は山梨産、長野産のシャインマスカットを中心に入荷した。引き続きシャインマスカットは好調で引き合い強く、総入荷量は前年比4.6%増。平均価格は前年比56円高。りんご類は青森産つがるを中心に入荷し、総入荷量は前年比0.7%減。平均価格は前年比30円安。

10月

[野菜]

気温は全国的にかなり高かった。降水量は沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。日照時間は北日本日本海側でかなり多かった。西日本日本海側でかなり少なく、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。

取扱数量は117,372 tで前年比2.3%増。平均価格は303円で前年比1.6%安。

主な品目では、だいこんは青森産及び北海道産を中心に千葉産の入荷。青森産は8月から9月上旬の高温により育成に影響があり、病虫害が見られたが、9月中旬以降の気温の低下に伴い生育は回復し前進傾向になった。北海道産も高温の影響があり、病害の発生もみられたが9月に入り落ち着いた。千葉産は高温、乾燥により生育に遅延が見られたが、天候

の回復により生育は回復し順調。総入荷量は前年比0.1%増。平均価格は前年より15円安い120円。にんじんは北海道産中心の入荷。8月から9月上旬の高温の影響により一部に病障害が見られたが、9月中旬以降の気温の低下により生育は回復している。総入荷量は前年比21.1%増。平均価格は前年より102円安い115円。キャベツは群馬産中心に入荷。一部に病害が見られたが生育は順調。後続の千葉産及び茨城産は高温と乾燥、その後の降雨により育成に遅延が見られる。総入荷量は前年比5.7%増。平均価格は10円高い128円。レタスは茨城産を中心に長野産の入荷。茨城産の生育は順調なものの、台風による定植の遅れや乾燥等の影響によりやや小玉傾向となった。長野産は8月の高温、降雨の影響により歩留まりの低下が見られ、中旬に終了した。総入荷量は前年比5.1%減。平均価格は前年より44円高い224円。はくさいは長野産を中心に入荷。8月の高温、降雨の影響により病障害が多発し品質が低下した。9月以降の気温の低下により生育は回復した。総入荷量は前年比5.9%減。平均価格は前年より3円安い105円。きゅうりは群馬産及び埼玉産中心の入荷。群馬産は8月から9月中旬の高温による生育の遅れが散見され、病障害も見られた。埼玉産も高温と日照不足の影響により流れ果が多発している。総入荷量は前年比11.3%減。平均価格は前年より81円高い519円。たまねぎは北海道産中心の入荷。作付面積は前年並みで収穫は終了した。総入荷量は前年比1.8%増。平均価格は前年より21円安い106円。

[果実]

かき類・みかん類・りんご類中心の入荷で、取扱数量は31,076 t。前年比13.0%減。平均価格は525円で前年比13.1%高。

主な品目では、かき類は和歌山産、奈良産を中心に入荷し、総入荷量は高温障害による日焼け果や果樹カメムシによる被害等が生じ、前年比14.1%減。平均価格は前年比30円高。みかん類は熊本産、長

崎産、愛媛産を中心に極早生みかんが入荷し、高温、干ばつの影響による日焼け果の発生や小玉傾向もあり、総入荷量は前年比38.1%大幅減。平均価格は前年比63円高。りんご類は青森産、長野産の早生ふじ、シナノスイート等が入荷し、前年同様夏場の猛暑の影響による日焼け果や生理落下も生じており、総入荷量は前年比20.9%減。平均価格は前年比21円安。

11月

[野菜]

気温は西日本、沖縄・奄美でかなり高かった。北日本、東日本で高かった。降水量は東・西日本日本海側、沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側で多かった。日照時間は北・東日本日本海側、北日本太平洋側で多かった。沖縄・奄美で少なかった。

取扱数量は108,004 t で前年比5.2%減。平均価格は306円で前年比25.4%高。

主な品目では、だいこんは千葉産を中心に神奈川県産の入荷。千葉産は高温の影響により生育の遅れが見られたが、気温の落ち着きに伴い回復している。神奈川県産は高温・干ばつの影響があったが、気温の低下と適度な降雨により回復した。総入荷量は前年比14.2%減。平均価格は前年より46円高い117円。キャベツは千葉産及び茨城産を中心に愛知産の入荷。千葉産は定植期の高温や降雨により生育に遅れが見られた。茨城産の生育はおおむね順調。愛知産は高温の影響により生育がやや不良となっている。入荷量は全体的に減少した。入荷量は前年比14.2%減。平均価格は前年より103円高い207円。レタスは茨城産を中心に静岡県産の入荷。茨城産は台風の影響により定植に遅れが生じ、その後の乾燥なども影響し小玉傾向となっている。静岡県産は高温の影響により生育が遅延傾向になっている。総入荷量は前年比10.8%減。平均価格は前年より91円高い246円。はくさいは茨城産中心の入荷。8月以降の高温の影響

により生育が遅延していたが、回復傾向にあり、前年を上回る。総入荷量は前年比3.5%増。平均価格は前年より30円高い80円。きゅうりは埼玉産及び宮崎産を中心に群馬産の入荷。埼玉産は高温と日照不足の影響で生理障害が出ており、病虫害も発生し作柄は不良。宮崎産は天候に影響されて生育に遅延が見られた。群馬産も天候の不順に影響され病障害が散見され作柄は不良であった。入荷量が大幅に減少し価格も高騰した。総入荷量は前年比25.3%減。平均価格は前年より350円高い683円。トマトは熊本産を中心に愛知産及び栃木産の入荷。熊本産は定植期の高温と10月以降の天候不順の影響を受け小玉傾向。愛知産は高温による生育の遅延や着果不良があり、病虫害も散見される。栃木産も定植期や生育初期の高温の影響で生育不良が見られる。入荷量は少なかった昨年を更に下回り、価格も高騰した。総入荷量は前年比18.7%減。平均価格は前年より212円高い739円。ばれいしょ類は北海道産中心の入荷。干ばつの影響でやや小玉傾向であったが、気温の上昇と降雨により、順調に肥大した。総入荷量は前年比12.2%増。平均価格は前年より8円高い131円。たまねぎは北海道産中心の入荷。収穫は終了した。天候に恵まれ生育も順調であったが、終盤は干ばつの影響で小玉傾向となった。入荷量は少なかった前年を上回り平年並みとなった。総入荷量は前年比25.9%増。平均価格は前年より64円安い125円。

[果実]

みかん類・りんご類・かき類中心の入荷で、取扱数量は34,618 t。前年比11.6%減。平均価格は490円で前年比18.1%高。

主な品目では、みかん類は極早生みかんが終盤となり、愛媛産、熊本産、長崎産を中心に、早生みかんを中心に入荷した。主要産地が裏年傾向であることに加え、高温の影響による着色遅れが生じ、総入荷量は前年比22.1%減。平均価格は前年比69円高。りんご類は早生ふじからふじへと切り替わ

り青森産、長野産を中心に入荷した。総入荷量は前年比4.8%減。平均価格は前年比42円高。かき類は新潟産平核無、奈良産富有を中心に入荷し、総入荷量は前年比1.0%減。平均価格は前年比25円高。

12月

[野菜]

気温は寒波の影響を受けやすかったため、北日本で低かった。降水量は東日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。北・東・西日本太平洋側、西日本日本海側でかなり少なく、沖縄・奄美で少なかった。降雪量は北日本日本海側で多かった。西日本太平洋側でかなり少なく、東・西日本日本海側、北・東日本太平洋側で少なかった。日照時間は北・東日本太平洋側でかなり多く、西日本日本海側、西日本太平洋側で多かった。東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側、沖縄・奄美では少なかった。

取扱数量は106,834 t で前年比11.5%減。平均価格は353円で前年比37.4%高。

主な品目では、だいこんは千葉産を中心に神奈川県産の入荷。千葉産は10月の天候不順の影響により生育の遅延が見られた。神奈川県産は播種期と生育期の高温と乾燥により生育に遅延が見られ、病虫害も散見された。入荷量は前年を下回り、平年も下回った。価格は前年大きく上回った。総入荷量は前年比10.1%減。平均価格は前年より50円高い120円。にんじんは千葉産中心の入荷。高温等の影響により生育に遅れが見られた。入荷量はやや少なかった前年を下回った。総入荷量は前年比16.5%減。平均価格は前年より43円高い181円。キャベツは愛知産を中心に千葉産の入荷。愛知産は8月から9月の高温と10月の天候不順により生育が遅延し、病虫害も散見された。千葉産も高温と降雨により生育が遅延し、入荷は前年から2割以上減少し、価格も高騰した。総入荷量は前年比25.8%減。平均価格は前年より

160円高い239円。レタスは静岡産を中心に長崎産及び香川産の入荷。静岡産は定植時の高温の影響で初期育成に遅れが見られ、虫害も発生したが回復傾向にある。長崎産は天候に恵まれおおむね順調。香川産は10月以降に気温が高かったため生育は順調であったが一部に病虫害が散見された。入荷量はやや少なかった前年を下回り、価格は高騰した。総入荷量は前年比16.1%減。平均価格は前年より193円高い413円。はくさいは茨城産中心の入荷。定植時の高温により生育は遅延傾向であったが、台風等の被害や病虫害もなく、生育は順調であった。総入荷量は前年比5.2%増。平均価格は前年より37円高い81円。きゅうりは宮崎産を中心に千葉産及び高知産の入荷。宮崎産は10月、11月の高温、多雨の影響により生育不良が見られるもののおおむね順調。千葉産は生育が順調も11月の曇雨天により鈍化した。高知産は生育にやや遅延があったが、草勢が落ち着き回復傾向。入荷量は平年並みであった昨年を下回り、価格は高値で推移している。総入荷量は前年比12.0%減。平均価格は前年より114円高い556円。トマトは熊本産中心に入荷。定植期の高温で生育不良が見られた。入荷量は平年を大きく下回り、価格は高騰した。総入荷量は前年比34.0%減。平均価格は前年より236円高い651円。さといもは埼玉産中心の入荷。作付面積は前年並み。生育は良好で収穫も順調であるが入荷量は昨年を下回った。総入荷量は前年比11.4%減。平均価格は前年より25円高い396円。

[果実]

みかん類・りんご類・かんきつ類・いちご類中心の入荷で、取扱数量は46,651 t。前年比5.9%減。平均価格は528円で前年比16.0%高。

主な品目では、みかん類は早生みかんから普通みかんへ切り替わり、愛媛産を中心に和歌山産、長崎産等が入荷した。総入荷量は前年比19.7%減。平均価格は前年比88円高。りんご類は青森産を中

心に岩手産、山形産、長野産等が入荷し、総入荷量は前年比4.7%減。平均価格は前年比50円高。かんきつ類は愛媛産、熊本産を中心に、レモンや不知火、愛媛果試第28号（紅まどonna）等が入荷した。レモンやグレープフルーツ等の輸入品は前年比で増加したものの、高温障害による着色遅れ等の影響により国産品を中心に減少したため、総入荷量は前年比11.7%減。平均価格は前年比50円高。いちご類は栃木産とちあいかを中心に入荷し、定植期の高温により生育遅延が生じ、総入荷量は前年比22.1%減。平均価格は前年比165円高。